

佐原の町並み かわら版

第53号
平成26年2月

発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会

お問い合わせ
佐原町並み交流館

電話 0478(52)1000

震災復興に感謝する

佐原の町並み建物特別公開が行われる

十月二十六日(土)、二十七日(日)の二日間

建物の価値を知るため

平成八年三月に佐原の歴史的町並みが伝建地区に指定され、同十二月に国の選定を受けた。

そこで、本物志向で修理・修景を促進してきた様子を特別公開する機会を設けようと、平成十七年に第一回目の建物公開が行われた。

佐原の景観地区にある建造物は、住民がそこで生活しているので普段

はなかなか見る機会がない。

しかし、折角長い間苦労して守ってきた特徴ある建物を「外側からだけ見たのでは真の価値を知ることができない」と考えて、各所有者に、年に二日間の建物公開をお願いしてきた。

昨年は、東日本大震災の被害がまだ残っている状態の中で公開だったが、今年は、小堀屋別館の屋上から佐原の町並みを上から望めたこと



平成26年を飛躍の年に

1月5日(日)恒例の新年を祝う神田囃子水鼓の会による壽獅子舞と恵壽美会による佐原囃子が佐原町並み交流館で披露され、多数の来館者に福を振りまいた。

(背景の書は本宮華水さんの揮毫)

修復された正文堂書店と福新呉服店などが公開され、多くの来館者があった。

公開された建物

- ①佐原町並み交流館②植田屋荒物店
- ③中村屋商店(忠敬橋角)④与倉屋
- 大土蔵⑤亀村本店⑥清宮家⑦小堀屋本店別館(震災復興写真パネル展)
- ⑧福新呉服店⑨正文堂書店⑩正上醬油店



正文堂書店

公開を知らせる工夫を

- 参加したスタッフからの意見
- ◆建物公開をやっていることを広く宣伝する工夫が欲しい。
- ◆歩測体験の場所には歩きやすいようにカラーコーンを置くとよい。
- ◆スタッフが少なくて説明が行き届かない所もあったのが残念だった。

相次ぐVIPの来訪



上は、アメックス財団代表T. J. マックリモン氏(9/5)。下は、WMF 副理事長エンジー氏とフリーマン財団会長フリーマン氏(10/22)

防火訓練の実施

- ◆印象に残ったこと
- ◆鹿児島県の知覧からのお客様に会えて感動した。
- ◆小堀屋本店別館の屋上公開はめずらしく、多くの市民が入場した。
- ◆同所一階で開催された東日本大震災写真展を見た観光客は、佐原の被害の大きさに驚いていた。

一月二日(水)の午前九時から交流館内と敷地内で、地域の方々も参加して行われた。佐原消防署より、火災誘導訓練、放水訓練、消火器の取り扱い方、また消火栓の操作、緊急連絡電話(119)のかけ方の指導を受けた。

結城市へ視察・研修

今年度の会員の研修旅行は、三月二日(日)に茨城県結城市を訪問する。町並みの見学と地域振興で行われている「まちづくり産業祭」の中で体験学習をする予定。

さわら雛めぐり

二月八日(土)～三月三日(日)
「さわら雛舟」の運行は
三月十五日(土)・十六日(日)
(同時開催)小江戸さわら春祭り
(伊能忠敬記念館から駐車場)



小堀屋別館屋上より

「小学四年生の総合的な学習」 二つの人生を生きた伊能忠敬に学ぶ

☆ボランティア案内班の活動☆

千葉県内各地から

平成十二年(二〇〇〇年)よりはじまった「総合的な学習」の一環として、小学四年生を中心に多数の子供たちが佐原を訪問する。(左写真)自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題解決の資質や能力を育てるといふ学習目標をもち、学習の場として多くの学校が佐原を選択してくれている。

ボランティア案内班としては、子供たちの安全に注意して、案内に工夫をしながら協力している。



千葉県内の小学四年生が中心で中学生も何校もあり、そのピークは十月と十一月。(平成二四年)は、

学校数 三九校 三、二四三名
人数別で断然多いのが、千葉、市川、我孫子市で最大一七四名。

(平成二五年)は、
学校数 三九校 三、三二九名
人数別では、市川、我孫子、柏、市原、木更津、東金、習志野市が多く、最大で一八三名の学校もあった。

佐原の三つの宝から学ぶ

三百年余の歴史ある山車祭、持続的社會を保持する町民の努力の成果である町並み。さらに、二つの人生を完璧に生き抜いた伊能忠敬を学ぶことである。

桶橋の歩測体験、記念館の展示物から、老境になっても新しい学問を修め、その成果を若者以上の熱意で実践した忠敬の生き方を子供たちに説明している。

見学後の子供たちの様子

帰校後に送付されて来る子供たちのお札の手紙から、佐原で学んだことを学校新聞の発表などに生かす家

庭内までにもその成果を伝えていることがわかる。(四面の「観光案内に感謝の礼状」を参照)

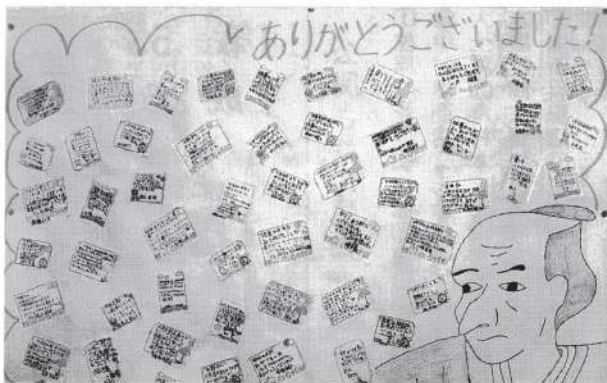
かかせない現地事前調査

各学校には適切な見学時間を取ってほしいと思う。長期休業中に事前の現地調査はぜひ必要である。その際には、案内班も実際に見学場所を先生方と歩くように心掛けています。

DVDや課題資料の準備

伊能忠敬記念館では、工夫された課題資料を準備している。

当NPOでも平成二三年に制作した「町ははぐらの宝物」と題するDVDで、「佐原の町並み」と「伊能図の完成までの道のり」をやさしく解説し、香取市内や体験学習で来佐した全ての学校に配布している。



「文化遺産と、まち・ひと・復興、東京大会」

佐原の会員十三名の半纏姿が注目の的

「文化遺産の役割をアピールし、支援を呼びかけて宮城→東京→宮城にリレー」されるイベントが、平成二五年十二月二十日(金)午後三時より文部科学省東館三階講堂で開かれ、佐原から高橋理事長、佐藤事務局長と十一名の会員が参加した。

会場入り口には、東日本大震災の被災状況を伝えるパネルが展示された。

佐原の状況もポード三面に展示されていて、佐藤事務局長が丁寧に説明した。

女川獅子振り、南部藩書松院年行



司支配太神楽の伝統芸能、東北被災地の現地報告のあと、W.M.F副理事長ヘンリー・エンジャー氏が「文化遺産と自然災害・復旧支援活動五十年の教訓」と題して、文化財保存の支援活動の経験と教訓をスピーチした。パネル・ティスカッションでは、高橋賢一理事長も参加し、支援により町並みの修復が終って観光客が徐々に戻って来ている現状を報告した。また、佐原の会員の半纏姿が参加者の目を引き力メラのフラッシュを浴びた。(写真)

佐原の町の賑わいを創りだす企画として、平成十八年六月四日にはじまった「骨董市」が、平成二五年十月六日の開催で第九十回目の記念すべき日を迎えた。

記念行事として、開催場所である八坂神社境内で午前と午後二回にわたり「篠笛奏者・片野聡の調べ」の演奏会が行われた。

骨董市が開催90回目

水郷佐原にふさわしい篠笛の響きが記念の日を祝った。(平成二五年九月の骨董市開催は、天候悪化により中止。以降は十一月三日、十二月一日、平成二六年一月五日、二月二日、三月二日と毎月第一日曜日に開催された。事情により変更される場合は、交流館及び観光案内所等に掲示される)



輛の浦にて

一参加報告一

平成25年9月20日、21日、22日

第36回

全国町並みゼミ倉敷大会

主会場：倉敷市芸文会館大ホール



倉敷の代表的景観

第三六回全国町並みゼミ倉敷大会に参加した三名の方に参加した感想を書いていただいた。

「小野川と佐原の町並みを考える会」では、会員ができるだけ全国を訪れて研修することは、佐原の町並み保存のために大いに参考になると考えている。

平成二六年度は佐賀県鹿嶋市にて十一月七、八、九日開催の予定。

道の左右で違う光景

根本 香子

初日は輛の浦へ足を伸ばす。官民の対立で保存修理は進んでいない。道が狭い。

二十日午後には開会式後、十九時より歓迎会はアイビー・スクエア・フローラルコート。煉瓦壁面がすばらしい。

倉敷市長は女性で、特産のジーンズの上着を召して、颯爽と登場した。

二十一日、私は「町並み保存・活用の望ましい方向」という分科会に出席。

八グループに分かれて歩いた道は、左右で風景が全く違うのには驚いた。片や虫籠窓の土蔵造り、片や草むら、屋根も崩れんばかりの家の庭は彼岸花で一杯。

旧倉敷市役所の屋上から見渡すと、旧倉敷幼稚園(大正四年築の国登録文化財)や重文の大橋家住宅と周辺の町並みとは全くのミスマッチ。年々、駐車場も増えているという。防災・耐震の他、結論の出しづらい管理運用と地域住民の意識向上が大切だと思う。

夜は、楽しみにしていた大原美術館での交流会。石毛さんは、世界の美術品を独り占め、エル・グレコの「受胎告知」の前で、その美しさに酔いしれていた。

二十一日は吹屋へ。住居の殆どは無住ではないか。佐原は倉敷と似ていると言われるが、倉敷には見せるための工夫は見えても「生きた、生活の匂い」がない。あるがままを残す大切さを学んだ。

隙のない景観に驚く

平野 光男

大会初日、倉敷市芸文館での開会式が盛会を終了。夜七時から倉敷アイビー・スクエア・フローラルコートで歓迎交流会。佐原の会員は、みな半纏を着て出席したので、会場内でよく目立った。各地の会員から声をかけられたので、活発で



吹屋の町並みにて

有意義な意見交換ができた。

二日目、私は「伝統的な町並みと周辺環境を考える」分科会で、町並み保存地区と周辺部の景観のつながりを討論した。倉敷の町並みは一分の隙もなく、きち

ちり整備されている。景観ポイントからは町並みの背景に高い建物が視界に入らぬよう整備されており、まさに別世界が作り出されていた。夜になると町並みはほのかな灯りに照らされて夢の世界。さすがに倉敷だ感心したが、「佐原の方がゆっくりするかな」と思った。

佐原でも、現在の景観がいつまでも残せるような条例整備が早急に必要だ。

観光と真のおもてなし

石毛 隆

私は「うかび上がる」まちの歴史資産活用と観光」をテーマにしたおもてなしでつながる地域と来訪者について話し合う分科会に出席した。

倉敷を訪れた車椅子の方から市観光課にあてた「倉敷では、その施設も自分で自由に行動でき、とても効率良く観光が出来ましたが、地元の方々と触れ合いが少なかつたのが心残りです」という手紙が披露された。

倉敷のボランティア団体は、直ちに検討会を立ち上げ、「バリアフリー化も重要だが、観光客の受け入れには観光客との心の関わりも重要だ」ということになり、現在では車椅子の観光客には希望があればボランティアガイドが一人付き添うという。

「観光客との触れ合い」の一つとして佐原でも、観光客の誰とでも「おはようございます」や「こんにちは」の声かけの実践をしたらいかかと思う。

倉敷の建物保存の状態は、良好だが、中心部は少し手の加え過ぎという感じ。

振り返って、佐原の建物保存状態は良好だし、現在もそこに市民が住んでいるということが佐原の自慢の一つである。



大原美術館入口

町並み交流館の主な行事

八月十日(土)〜九月一日(日)

魚谷幸子水彩画展

二四日(土) (体験事業企画)

写真教室① 講師・池谷眞男氏

九月 六日(金)〜二三日(月)

全町内扇子展

七日(土) 歴史講演会八重の桜②

講師・福田嘉文氏

八日(日)「弦楽四重奏による過ぎ

ゆく夏」ニューフィル千葉

二八日(土)〜十月二十日(日)「佐

原・大祭・母と子と」北澤聖江展

十月二三日〜二七日 秋季盆栽展

十一月一日〜二四日 古河博章作品展・

色鉛筆で描く佐原の町並み

二三日(土) (体験事業企画)

写真教室② 講師・池谷眞男氏

二五日〜十二月八日 ミニチュアフー

ド・ドールハウス展 橋本京子氏

十二月十六日〜二六日 佐原の観光と祭

り写真コンクール入賞作品展

二二日(土)「クリスマス・コンサ

ート」ニューフィル千葉

二二日(日) 本宮華水・席上揮毫

二五日(日) (体験事業企画)

正月用寄せ植え教室

平成二六年

一月 二日(木)〜十九日(日)

新春切り絵展・野口正博氏

五日(日) 獅子舞と佐原囃子

二六日(日) 佐原いろはカルタ大会

※ボンネットバスは、十月十二日、十一月十六日、三十日、十二月十四日、十二月二日、平成二六年一月五日、十九日に運行された。

町並みを歩いて(その九)

重伝建地区の隠れた魅力を発掘

忠敬橋際の雪隠

「ちゅうけい橋」の東のたもとに和風トイレと電話ボックスと火の見櫓が立ち、さらに、植田屋さんの壁面に沿って「赤松宗巨の利根川図志」の引用が書かれた掲示板がある。

実はここが佐原村の中心地であり、高札場や番屋などがあった。立派な火の見櫓も聳えていた。

昭和三十年代には、通称「橋元交番」と呼ばれる派出所があり、警官が常駐していた。昭和四十年代には、ダンプの往来が激しくなり交通事故を防ぐために歩道橋が火の見櫓の先の道路をまたいでいた。

寛政六年(一七九四)に橋元町

わかりやすい説明で佐原がすきに

※この前は半日もぼくたちのためにも使ってくれてありがとございました。案内の説明はすごくわかりやすく、佐原が好きになりました。佐原はむかしの物がいっぱいあって、すてきだと思います。

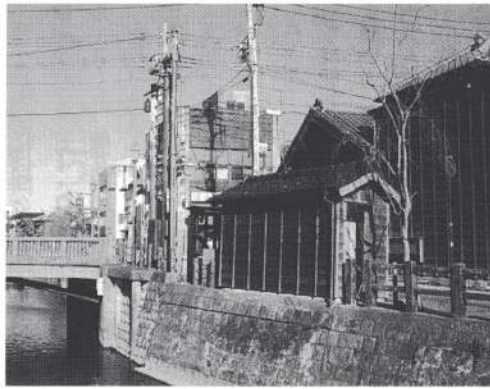
お昼ごはんを食べた

場所では東京駅にて

観光案内に感謝の礼状(その11)

ぼくたちの住んでいる千葉市では昔の物はほとんどないので、佐原にきて昔はこんなふうなんだとわかりました。忠敬の家を見れなかったのはさんねんだけど、しんさいの写真があってわかりやすかったです。

(千葉市・小学四年男生徒)



(現本橋元)の惣代が、村方後見の伊能三郎右衛門と村役人に差し出した文書が残されている。

伊能三郎右衛門こそ伊能家十代目の忠敬であり、いよいよこれから江戸へ行くとうと心に決めていた四九歳の頃である。

戸へ行くとうと心に決めていた四九歳の頃である。

文書によれば、道普請に際し「雪隠」を作ることを通告し「もし、苦情が出れば取り払います」という内容である。その位置が、「お上のお触れ」などを張り出す場所の少し南とされ、現在地とほぼ一致する。

「火の見番所」もあり、屋には「髪床」が出張ってきた。忠敬も髪を整えたり、月代を剃らせたのではないかと思われる。

雪隠を川岸際に建てたのは、肥舟で運ぶのに都合が良かったからで、古い写真を見ると、建物が少し川の方へ向かって突き出している。

東日本大震災のため、このトイレは現在使用不可であるが、NPOとしては、更地にはせず、ここがただの道路ではなかったこと、都市の文脈を残す何らかの建造物を建ててほしいと、市に要望を出している。

学級新聞や家の人にもくわしく

※佐原に見学に行った時、ていねいに教えていただきありがとうございます。おかげで学級新聞や家の人などにくわしく伝えることができました。わたしも佐原に住んでみたいと思ったり、町のほこりがたくさんあってとても良いところだ

りがとても良いところだ

なと思いました。わたしがいちばん最初に感動した事は、古い町なみと大きな山車です。すごく昔から建てられた建物や長い間続いているお店や、火事から家を守るための工夫があって、とてもおどろきました。山車会館では、今では作れない彫刻や大きな人形にとっても興味をもちました。(千葉市・小学四年女生徒)

伊能忠敬の全国測量(第一次測量の①)

五十五歳の忠敬、五人の若者を供に

Ⅱ 蝦夷地南東沿岸へ向かうⅡ

伊能忠敬「測量日誌」や「書状」の中から拾い上げた興味深い事柄をいくつか書き抜いてみた。(編集部)

出発前の煩わしい準備

出発前の煩わしい準備

測量道具一式、大きな道具は箱館まで船便で等々、人馬の手配や先触れを出しながらの旅、止宿する村々の名主・年寄との交渉を一人でこなす忠敬の手腕は、彼が一流の商人として培ったものである。

「御用職」は佐原に注文

「先と同じように、紺地に白ぬきの文字で作ってもらいたい。測量方という文字も付け加えて四本を注文する。文字は久保木清淵殿に書いてもらいたい。職は全部で六本となる」これは測量が本格的になった頃と思われる書状にある。蝦夷への初旅の折に使った職は二本には、「測量方」の三文字は入っていないかった。

いよいよ出発の朝

蝦夷まで船で行けば、測量器具や身の回りの荷物の運搬も楽に出来るし、日数も短縮できていいという案もあったが、「緯度一度の算出には徒歩が欠かせない」と忠敬は考えた。寛政十二年閏四月十九日(太陽暦で六月十一日。以下6・11と記す)

朝五ツ前という朝七時前。佐原村や江戸府内の身寄りの者が見送り、そのほとんどが千住宿まで来て一泊、翌朝、心置きなく別れた。

五人の若者を供にして

忠敬が供にした内弟子三人。門倉隼人は師高橋至時の命で加わった天文方下役。平山宗平は忠敬の内弟子で、妻ミチの母親の生家・多古の平山季孝の次男。(二人は十代だったのではないか)。伊能秀藏(しゅうぞう)は忠敬の二番目の妻との間の子で未だ十四歳。蝦夷への徒歩の旅は酷だが、父として秀藏の将来にかける期待は大きかった。下働きとして雇われた佐原吉助と長助。長助は途中腹痛を起し江戸へ帰された。高橋至時は、子午線・緯度一度の算出と蝦夷南東部測量のためのこの事業は、幕府からの援助は得られにくい、財力のある忠敬にしか成就できない事業だと考えていた。忠敬は書状の中で「測量途中で必要な費用が出ればすべて自分で始末をします」と述べている。

第一次測量は、蝦夷からの帰路を考えて「いちいち間棹や間縄を使わずに歩行の足数で里程を求めた。」出来ればウルップ、エトロフ、クナシリ等の島々へ渡る構想があった。